毎日が、散歩の途中 34

男の勇姿が見たい！

文と絵　岡本 杏子

ロンドン五輪が終わった。今年は例年以上にテレビ観戦を楽しんだ。今大会は女子の活躍が際立ったという評が高いが、本当にそう思う。なでしこジャパンを筆頭に女子の頑張りと笑顔が印象的だった。

マイナー競技でも活躍が光った。アーチェリー団体の早川・蟹江・川中選手や重量上げの三宅選手の集中力はすごかった。柔道の松本選手や、レスリング小原・伊調・吉田3選手の見事な戦いっぷりには圧倒させられた。

厳しい顔で闘志溢れる女性たちは勇ましかった。その表情が一変して笑顔になる瞬間は思わずこちらも笑顔になった。表彰台の上の晴ればれとした表情にも魅せられ、同性ながら女の人の笑顔はいいもんだナーと思った。

一方で、実は男子もよかった。体操の内村選手が個人戦で跳馬の着地をピタリと決めた時は鳥肌が立った。あんな姿勢でくるくる回ってマットに吸いつくように着地するなんて超人的だ。どれほどの努力がその陰にあることか。

ハンマー投げで銅メダルを決めた後、日の丸を背負って競技場をゆっくり一周した室伏選手には強くたくましい男の貫録があった。競泳リレーの松田選手が「康介さんを手ぶらで帰すわけにはいかない」と3人で話していた」という言葉には男の仁義を感じた。

終盤に金を連発したボクシングの村田選手とレスリングの米満選手もよかった。表彰台の2人はどう見てもおとなしそうな青年で、両隣の屈強な外国人と見比べて「本当にあの人たちに勝ったの？」と不思議に感じたが、実際に頂点に立ったのだからすごい。

朗らかでさわやかに戦った女子、内に秘めた想いを静かに成し遂げた男子。男も女もなく、選手はみんな素敵だった。日頃、政治家や東電のがっかりな男の姿ばかり見て、正直、男にうんざりしていたが、五輪ではかっこいい男たちを見られて嬉しかった。女は男の勇姿が見たいのだ。

選手が一様に仲間や周囲への「感謝」を口にしていたのも印象深い。卓球、競泳、フェンシング等のチーム戦で結果を残せたのも、和のために個が力を尽くした結果だ。一流のスポーツ選手から学ぶべきことはたくさんある。

テレビ観戦でひとつ残念だったのは、アナウンサーの過度なおしゃべりとテーマソングの繰り返し。時々消音モードにしてみるものの、無音ではやはり臨場感に乏しく……。「会場の音だけ聞こえるモードがほしい」とつくづく思った次第である。

岡本 杏子（おかもと きょうこ）
神奈川県生まれ。世田谷区在住のライター。店舗・住宅・人物の取材執筆を得意とする。今までに経験した職は巫女さんや写真家秘書などアルバイトと正社員を含めて20を超えるが、ライター業に落ち着き、はや15年。散歩と晩酌と猫をこよなく愛する、一女の母。

特別寄稿

ベトナムの海水浴

朝日新聞社　牧野 愛博

道の両側に広がる水田。編み笠姿の人々が一生懸命田植えに励む一方で、水牛がのんびりと水浴びをしている。街中に入れば、あちこちの木陰で、人々が脚の短い椅子に座って米の麺をすすったり、お茶を飲んだりしている。

ベトナムの首都ハノイからほど離れたヴィン。7月半ば、この街で米軍や海上自衛隊などが参加する医療支援活動「パシフィック・パートナーシップ2012」が行われた。

私が訪れたのは、ヴィン市内にある小学校。1日あたり、500人ぐらいの患者が、ヴィンの近郊からここに集まって来るという。一番多い症例は「腰痛」。「恐らく田植えなどの農作業が多いせいでしょう」と自衛隊の医官が教えてくれた。彼らはベトナムの前はフィリピンで活動していたが、「初めて医者にかかった」と答えた人が多かったフィリピンに比べ、ベトナムでは殆どが「病院を訪れたことがある」と答えたという。医官は「貧富の格差が余り大きくないんでしょう」と続けた。

ハノイに比べたら、マニラは大都会だ。観光客が集まる場所は、巨大なショッピングセンターや高級ホテルが立ち並ぶが、庶民の生活は極めて質素だ。マニラっ子が良く使う乗り合いタクシー「ジープニー」は1回乗れば20円足らず。もちろん、ジープニーには始点と終点しか書いてない。何度か試行錯誤してルートを覚えて初めて使いこなせる代物で、我々のような外国人にはとても手に負えない。外国人にはよく見えない場所のあちこちに、貧しい生活が隠れている。

もちろん、ベトナムが素晴らしいということにもならない。比較的、貧富の格差が大きくない、というだけの話だ。

31歳になるベトナムの知人が先日、稼いで貯めたカネを全額つぎ込んで、ハノイ市内に小さな土地を買ったという。「インフレが激しいから、ドン（ベトナムの通貨）の価値はすぐに下がる。土地の方が絶対に良い」と話す。ベトナムは社会主義だから、土地の所有権ではなく、使用権を買うわけだが、皆、財テクに熱心だ。

知人は「みな平等に貧しい生活から始めた。でも、だんだん、ベトナムでも貧富の格差が広がり始めているんです」と話す。

ヴィンには大きな海水浴場がある。海水浴シーズンの今は、ハノイから押し寄せる市民たちで海岸のホテルは満員になる。往復で150ドル（約1万2千円）ぐらいする飛行機を利用する人も少なくない。砂浜で遊ぶハノイっ子たちの後方の洋上に、米国海軍の病院船「マーシー」と海上自衛隊の輸送艦「おおすみ」が並んで停泊している様子が見えた。

町ネタ

東西南北

マウリッツハイス美術館　オランダ・フランドル絵画の至宝

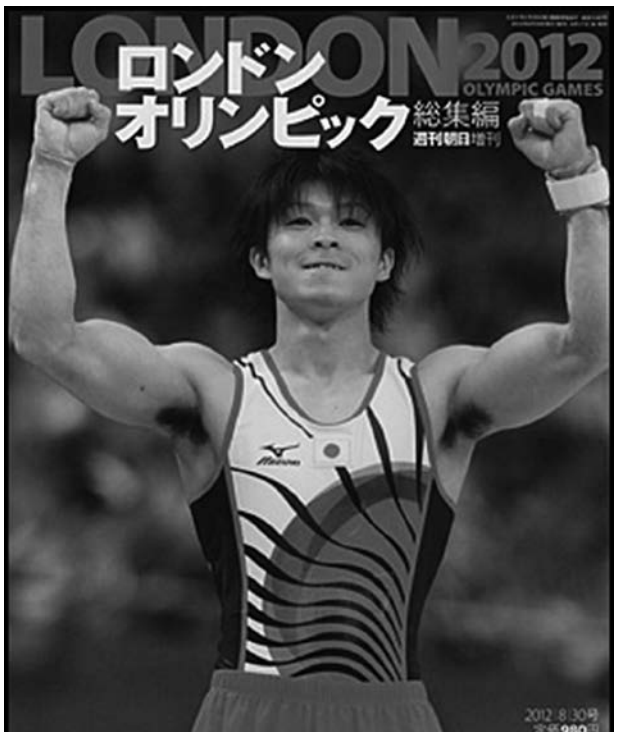
開催中～9月17日(月)(祝)
東京都美術館（上野公園）
☎5777－8600（ハローダイヤル）
一般 1、600円
東京都美術館（上野公園）

「17世紀オランダ・フランドルから、めくるめく巨匠の競演」

17世紀のオランダやフランドルは、西洋美術史に大きな影響を及ぼした巨匠たちを、数多く輩出しました。本展では、17世紀オランダ・フランドル絵画の世界的コレクションで知られるオランダ・ハーグのマウリッツハイス美術館から、名品約50点を選りすぐって紹介します。最大の注目は、世界的なフェルメール・ブームのシンボル的存在「真珠の耳飾りの少女」です。最初期の作品「ディアナとニンフたち」とあわせて、2点のフェルメールが出品されます。さらには、最晩年の「自画像」をはじめ一挙に6点が並ぶレンブラントは壮観です。そのほか、フランス・ハルス、ルーベンス、ヤン・ブリューゲル（父）ら、巨匠たちの息もつかせぬ傑作の数々を堪能する格好の機会です。本展は、2010年から改修で休館していた東京都美術館の、リニューアルオープン後第一弾の特別展です。企画展示室の鑑賞環境が向上し、レストランなどの設備面も充実。ますますフレンドリーさを備えた「新しい都美」に、ぜひ足をお運び下さい。

“思い出の夏”を朝日新聞出版の本で

お問合せ・お求めは、ASA田端・ASA西ヶ原まで



ロンドンオリンピック 総集編
定価：980円（税込）／発売日：2012年8月17日／A4変判　180ページ　平綴じ　週刊朝日増刊

甲子園2012　代表校49チームの戦力分析。甲子園を熱くする注目選手も紹介！　インタビューは荒木大輔。
定価：500円（税込）／週刊朝日増刊